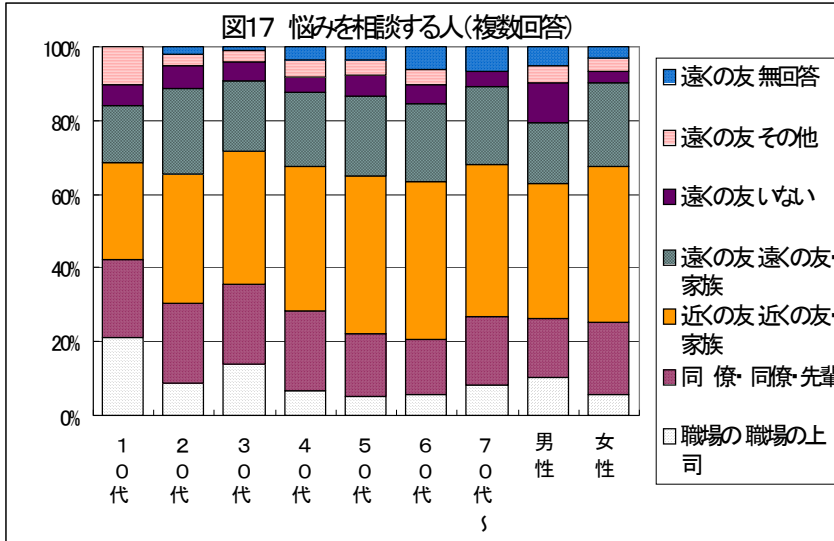


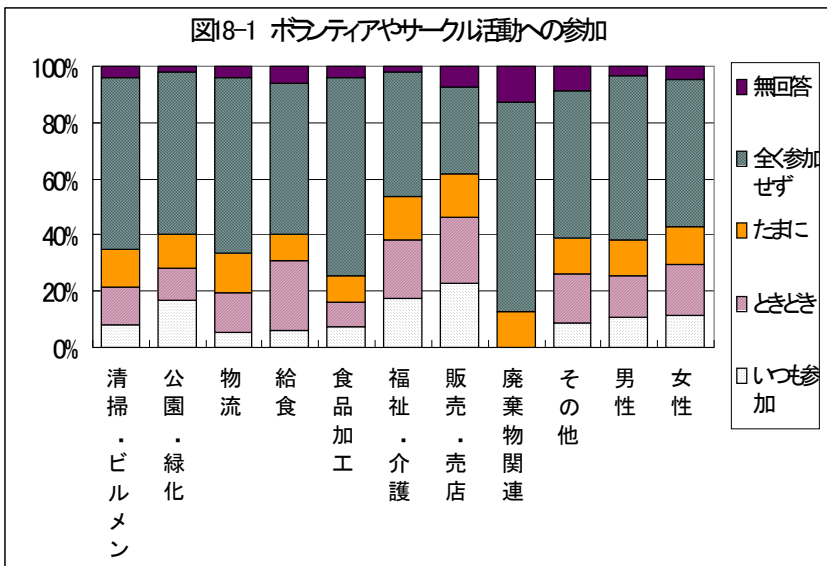
6. 悩みの相談相手



悩みの相談相手は「近くの友・家族」が多かった。相談相手がいなかったのは前回同様男性が多く、その割合は女性の約3倍に達した(男性14.3%、前回比0.4ポイント↑、女性4.0%、同1.0ポイント↓)。表27で「ストレスがあり」と答えた割合が一番高かったのは40代男性の86.3%(うち相談相手がいなかった割合は12.3%)であったが、「相談相手がいなかった」と答えた割合が一番高かったのは30代男性であった(ストレスありが84.9%、相談相手がいなかったのは18.6%)。

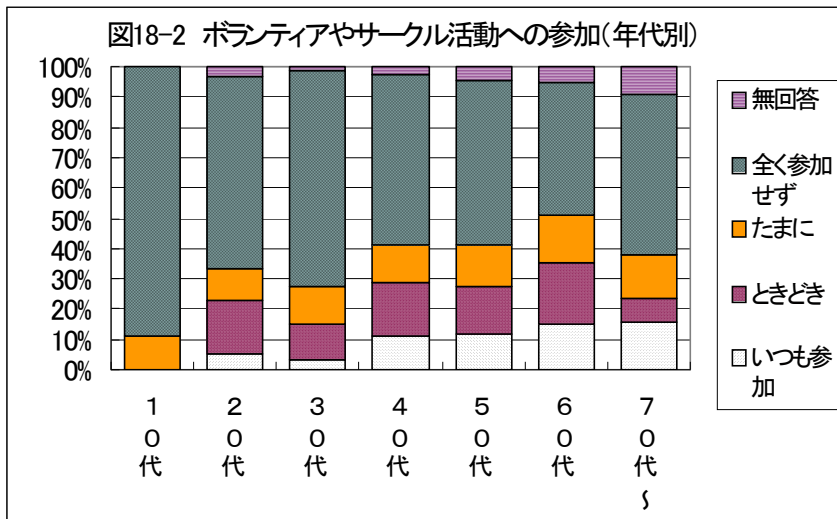
VI. 組合員と地域社会

1. ボランティアやサークル活動



全体では、「いつも参加」「ときどき」を合計した数値は前回より増えた(今回27.9%、前回21.3%)。全く参加しない割合は、男女ともに10代88.9%、30代71.0%が高い(表30)。女性は40歳以上、男性は60歳以上になると約半数の人が参加するようになる。また、「いつも参加」「ときどき」を合計した数値は、20代、30代、50代、

60代は男性より女性のほうが高かったが、40代はあまり差がなかった。他世代と異なる傾向を示したのが70代で、女性より男性のほうが参加率が高かった(女性18.9%、男性26.1%)。



%)。前回でも70代は男性のほうが参加率が高かったのだが、今回は男女差が14.3ポイントもあったので今回は縮まったと言える。

職種別で参加の多い職種をあげると(「いつも参加」「ときどき」の合計)、福祉・介護が38.4%と高く(前回比10.2ポイント↓)、次いで物流の30.9%(同1.2ポイ

ント↑)、販売・売店の26.6%(前回比なし)であった。他の職種は10%を斬っている。

「参加して良かったと思うこと」の回答は、どの年代も5割以上が無回答であった(表31)。一番多い理由は、「新たな友人・仲間ができたこと」(20.6%)、他に多かったのは、「活動自体が楽しい(11.4%)」、「生きがい(11.2%)」、「健康・体力増進(11.0%)」であった。社会に役立つ活動というよりは、自分のための活動を理由に挙げる人が多かった。

2. 近所とのつきあい、地域コミュニティ

男女ともに年代があがるにつれつきあいが段々増えていく。つきあいが「頻繁にある」「まあまあ」と合計すると、男性が60代でようやく5割を超えて67.2%となるのに対し、女性は30代で5割を超え57.7%となる。前回と比較すると、全体でつきあいがある(頻繁・まあまあ)と答えたのは女性が62.7%で前回の63.7%とあまり変わらないのに対し、男性は41.8%と前回より11.4ポイントも数値が下がっている(表32-1)。

また、70代男性の2割、70代女性の3割が近所とのつきあいが「あいさつ程度」というのが気になる(前回、70代女性は42%が「あいさつ程度」と答えている)(表32-2)。

地域コミュニティが残っていると答える人はどの年代も3~5割弱であった。前回と比較すると全体では、44.9%が「残っている」と答えた(前回比2.7ポイント↑)。次いで「分からない」が32.5%、「思わない」が18.5%。昔は当たり前だったであろう「地域コミュニティ」が残っているか「分からない」と答える人が3割いるということは、「地域コミュニティ」の概念が漠然としていてどのようなものかわからないと考えられる(表33)。

3. 職場、近隣・近所以外の友人

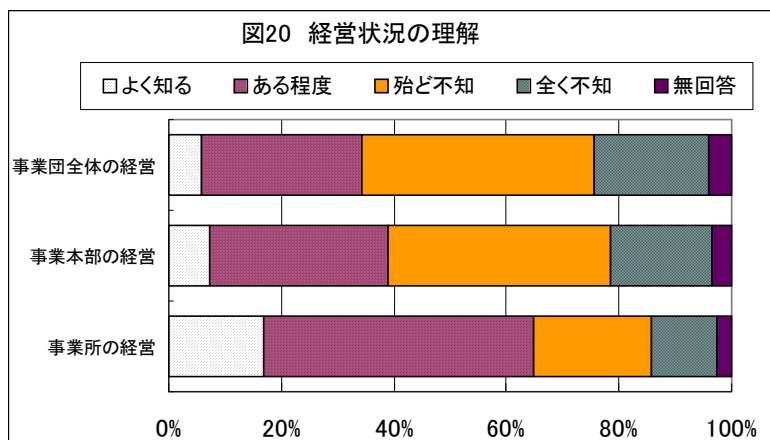
10代男女、20~50代男性は職場・近所以外のつきあいが「ない」と答える人が2~3割いた。しかし、40代男性で「ある」と答えた人が83.6%にのぼり、周りの年代に比べて数

値が高い（30代男性73.3%、50代男性69.4%）（表32）。

VII. 労働者協同組合（事業団）の事業経営に関する意識

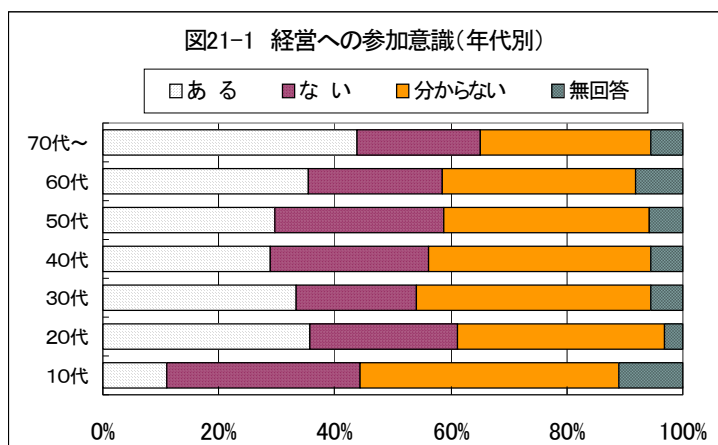
1. 経営状況を知っているか

経営状況を知っている割合が多い順に並べると（「よく知っている」「ある程度」の合計）、販売・売店84.6%、物流75.3%、廃棄物関連75.0%、福祉・介護74.5%、清掃・ビルメン65.8%、公園・緑化63.3%、給食56.7%、食品加工18.4%となる。年代別で多かったのは、



男女別では30代男性が79.3%、40代女性が70.6%であった（表35）。前回の調査と比べると、事業所においては経営を把握している人が全体で64.7%と、前回より7.7ポイントも増えた。事業本部の経営状況は38.9%（前回比2.2ポイント↑）、事業団全体の経営状況は33.8%（同0.5ポイント↑）で前回より微増した（表35）。

2. 組合経営への参加意識



組合経営の参加意識については、「分からない」がどの職種も約3割~5割と多いことを考えると、経営することを漠然としか理解できず、どのようにかかわるべきか整理できていないのではないかと考えられる（表36-1）。参加意識が「ある」と答えた人の割合が多い順に並べると、清掃・ビルメンが37.6%（前回比3.3ポイント↑）、福祉・介護が34.1%（同1.3ポイント↓）公園・緑化が33.3%（前回比4.0ポイント↓）、給食が29.9%（前回比なし）、販売・売店が26.9%（前回比なし）、物流が25.9%（同4.2ポイント↑）、食品加工が16.8%（前回比なし）、廃棄物関連が12.5%（前回比なし）であった（表36-1）。

（表36-1）